

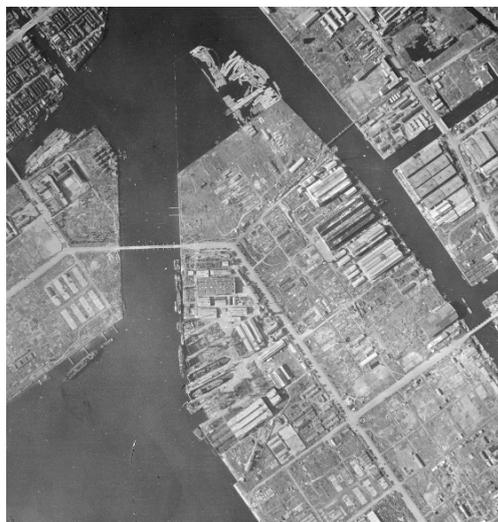
石川島播磨重工業東京第1工場について

平成10年以降に入隊した方々にご存じないかもしれないが、東京都江東区豊洲にある大型商業施設「アーバンドックららぽーと豊洲」が所在する場所には、かつて護衛艦等の建造修理を行う石川島播磨重工業東京第1工場（IHI東1工場）が所在していた。IHI東1工場は平成14年3月まで三菱長崎と並んで護衛艦等建造修理における東日本の最大拠点であった。

同工場の起源は古く、嘉永6年（1853年）に墨田川河口の石川島に設立された石川島造船所にさかのぼる。豊洲に造船所が設立されたのは昭和14年2月であり、この時から船台4基、ドック1基を持つ近代的な造船所として操業を開始した。



昭和11年の豊洲付近



昭和22年の豊洲付近

創業後ほどなく大東亜戦争が始まり、昭和20年3月の東京大空襲で工場施設も大きな被害を受けるが、戦後まもなく昭和22年に工場が米国船舶管理局の指定工場となり、米国船舶の修理を行うようになってからは操業が安定した。

そして昭和30年10月、戦後最初に同工場で建造した護衛艦「あけぼの」が進水、海自艦艇建造造船所として実績を作った。

その後、同工場では海上自衛隊艦艇26隻（DDG×1、DD×16、DE×3、LST×3、MST、AOE、TV各1）を建造したが、最後に建造したのが09DD「あけぼの」であり、奇遇にも最初に建造した海自護衛艦と同名の護衛艦となった。そしてIHI東1工場は「あけぼの」引き渡しを最後に平成14年3月に閉鎖された。

IHI 東1工場では日本唯一の原子力船「むつ」を建造し、昭和44年に進水させている。原子力船「むつ」はその後昭和49年、原子炉に問題が発生し、しばらく非可動に近い状態が続いていたが、平成7年に原子炉区画を切断陸揚げ後、平成8年に同工場で改造工事を実施（前部船体をIHI 東1、後部船体を三菱下関で改造、船体接合はIHI 東1で実施）、ディーゼル電気推進に換装、海洋地球研究船「みらい」として再生した。

参考文献：「艦船造修60年の歩み—東京第1工場の足跡—」
 (城田公治著：日本造船学会誌)



在りし日のIHI 東1工場



現在のららぽーと豊洲（ドックの名残あり）



最後の建造艦「あけぼの」引渡し記事

